



挑戦することで人は磨かれる

株式会社内山精工

代表取締役社長 内山 彰博

私は5歳の時から空手を始めました。

「心の強い子に育てて欲しい」と思った父は、私の意志とは関係なく上市町の空手道場に私を連れて行きました。道場は厳しく、よく泣きながら稽古をしていた記憶があります。小学4年生から野球も始め、中学・高校では部活が終われば空手の稽古に行くという生活でした。ただ、今思えば学生時代は色々中途半端だったなと思います。強くなりたいがキツイ練習・稽古はあまりしたくない。いつもさぼることを考えていたような気がします。そんな自分を変えてくれたのが空手の先生との出会いでした。

大学を卒業し、富山に戻って3年ほど経って仕事に慣れた頃、道場の後輩から「先輩、また一緒に空手やりましょう」と声をかけてもらったのがきっかけで再び道場に通い始めました。県内では強い方だったので、毎年、東京で開催される全国大会に出場していました。当時は全国大会には出場するだけで、東京に遊びに行く感覚でした。しかし、元来負けず嫌いな性分なので、何回も負けてると悔しくて、「強くなりたい、やるからには日本一になりたい」という気持ちが強くなり、本気で空手に打ち込むようになりました。それでも何度も壁に跳ね返されくじけそうになっていた時に、空手のプロとしてやっていた先生が富山に移住され、指導をしてもらっていたのですが、その先生から「やればできる」とずっと言われ続けていました。その言葉に励まされ、復帰してから5年後、31歳の時に念願の全国優勝を果たすことができました。そして「次は、日本代表になりたい！日の丸

を胸につけて世界で戦いたい！」と、新たな目標を持ちました。

全国優勝したのは団体戦で、個人戦で成績を出さないと代表には選ばれません。プロの選手もいる中で、田舎の町道場で育ったレベルの自分がそこに辿り着くのは誰からも不可能と思われていたと思います。当然、それまでも個人戦に出場して何度も挑戦していましたが、上位に食い込むことはできませんでした。

そんな時、日本代表経験者である先生に「先生は体格も大きいし、才能もあるし・・・」と言ったことがありました。すると「バカやろう！俺とお前とではやってきた稽古の数が違うんだ！俺と同じ数の稽古をしてから才能だのなんだのと言え！やってもないのに才能のせいにするな！」と、雷を落とされました。そして静かに私を諭すように「内山、『鍛錬』という言葉を知っているか。千日の稽古をもって『鍛』となし、万日の稽古をもって『錬』となす。宮本武蔵の言葉だ。誰よりも稽古しろ・・・。」と言われたのです。



2004年7月 全国団体優勝

それを聞いて私は、「よし！形の稽古を1万回やろう」と決めたのです。年間2000回やる。その為には毎月200回、週に何回、一日何回と目標を立てました。仕事をしながら、道場で子供たちを教えながら、さらに自分の稽古の時間を作ってやり続けました。そして5年がたち、1万回の稽古が達成できた年に個人戦で決勝の舞台に立つことができました。そして日本代表候補に選ばれたのですが、最終的に日本代表の夢は叶いませんでした。それでも40歳からシニア部門での日本一を目指してやり続けました。そして46歳の時にアジア・オセアニア選手権シニア部門で日本代表に選ばれ、形で優勝、組手で3位になりました。この時初めて、夢を持ってそれに挑戦し、諦めず、努力し続けることの大切さを身をもって経験することができました。

日の丸を胸に世界の舞台で戦いたいと思い始めて15年。日本一を目指したのが27歳、日本代表を目指したのが31歳、国際大会で優勝できたのが46歳。人はいつスイッチが入るかわからないと思いました。私にとっては空手の先生との出会い、そして「やればできる」、この言葉が始まりでした。そして、諦めず頑張り続けてこれたのは自分の子供たちに「夢



2019年8月 アジア・オセアニア大会個人優勝

を持ってそれに向かって一所懸命頑張る子になってほしい」と願っていたからです。それは口で言っても通じない、自分がその姿を見せないといけない、そう思っていたからです。

そんな色々な空手の経験は仕事にも生かされています。弊社は自動車や産業機械向けの軸受け部品や様々な機械要素部品を作っています。安く作るために一緒に海外に行かないかと誘われたこともありましたが、私は、日本で、富山で、この上市で地元貢献しながら頑張ろうと決めました。ではどうやって生き残っていくかということ、加工が難しいもの、小ロットで手間がかかるものなど、他社が嫌がることに積極的に取り組んでいます。

何事もできるかできないかではなく、やるかやらないかです。まずやってみる、挑戦する。その過程で人は成長すると信じています。社員の成長が会社の成長に繋がります。常にもっと良い方法はないか、もっと楽にならないか、色々なことを社員みんなできると考え、前向きに取り組む姿勢を大切にしています。

創業90年の弊社ですが、創業者の語録の中に「企業は人なり」という言葉があります。まさしくそうだなと実感し、今、自分の使命として人材育成に力を入れています。社員だけでなく、空手を通して地域の子供たちを、また、将来のものづくり人材確保のため、若いうちからものづくりに関心を持ってもらおうと、富山県機電工業会が中心となって進めている中学生の工場見学の受入れや中学校での講義を積極的に行っています。そして、経営者仲間と一般社団法人の組織を立上げ、新入社員や若手社員の研修会も開催しています。

未来を担う子供たちに「大人ってカッコいいな」「俺もあんな大人になりたいな」そんな姿を見せるのが大人の役割だと思っています。これからも色々なことに挑戦し続けていきます。